

小松市立竹津小学校 学校評価結果報告書

	自己評価				学校関係者評価		次年度の方向(改善計画等)
	評価項目と具体的取組	評価指標	達成度判断基準	取り組みの状況	達成状況	学校関係者評価者による意見	
① 組織的な学校運営	〈組織的な学校運営〉 校長の学校経営ビジョンを理解し全教職員が1枚岩となり、ビジョン実現のための運営をする。	〈満足度指標〉 各主任層を中心に毎月定例化した運営委員会を開催し、経営方針の具現化を図る。	運営委員会や主任会議の実施回数及び具現化が A：毎月できた(十分でできた) B：10回以上でできた(おおむねできた) C：8回以上でできた(課題が残るができた) D：7回以下(できなかった)	月1回の定例会と必要に応じて臨時に実施した。	A	・学校全体に落ち着きを感じられ、子どもたちもとても素直で明るい。	・毎月、学校運営委員会を継続し、更に充実する。 ・分掌部会の開催と部会としての組織的な学校運営を心がける。
	〈学校の環境整備〉 施設設備が安全で使いやすい状態を維持するために管理整備の徹底を図る。	〈努力指標〉 定期的な安全点検の実施と不備箇所への迅速な対応ができた。	不備箇所への迅速な対応が A：十分でできた B：できた C：だいたいできた D：できていない	毎月15日に点検を実施し、即対応ができた。	A	・学校や児童の安全に関して、地域や保護者との連携がうまくいっている。	・地域の方の手を借りながら、常に先を見た安全管理に心がける。
	〈学校研究〉 目指す児童像に迫るために研究計画を策定し、全教職員共通理解のもと研究組織の効率的な運用を図る。	〈満足度指標〉 研究課題への実践と工夫を全体会や部会を通じて共有することで個々の研修成果に満足感が感じられた。	満足感が得られた割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	定期的な授業研究を行い、観点を整理した授業整理会での活発な意見交換ができた。事前授業の実施。	A	・先生方の指導も、皆熱心で、一生懸命さを感じる。	・教育実践の継続と、目指す児童像実現へのステップの明確化。 ・研究の方向性についての共通理解を更に図る。
② 確かな学力の育成	〈授業改善〉 算数科を中心に学び合いの場面を通して、自力解決、練り上げの方法、言語活動の活発化を図る授業開発を進める。	〈満足度指標〉 自力解決、練り上げに繋がる言語活動が行われている。	子どもの満足度が A：十分できている B：大体できている C：あまりできていない D：できていない 授業開発ができていて A：十分できている B：大体できている C：あまりできていない D：できていない	教科の幅を広げた言語活動の実施。ねらい・課題・ゴールを明確に提示した授業設計。	B	・子どもたちの感想に授業がわかりやすく楽しいという言葉があり、先生方の確実な取り組みがうかがえる。	・児童が主体的に授業に取り組み、達成感のある授業になるよう、更に授業改善に取り組む。
	〈少人数〉 算数科におけるきめ細かな指導に関して適切な計画と指導改善が図られている。	〈満足度指標〉 適切な計画と指導上の工夫により効果が現れている。	個に応じたきめ細かな指導が A：十分できている B：だいたいできている C：あまりできていない D：ぜんぜんできていない	児童は、発言しやすい、わかりやすいなど意欲が高まった。教師は定期的な打合せで、協力して教材研究や準備ができた。	A	・少人数授業については、一人一人の子どもに応じた、細やかな対応をしてもらっているので、子どもも満足している様である。	・児童一人一人が、自己表現力をつけるよう、指導の手だてをさらに工夫する。
	〈学習支援サポート〉 国語科や算数科の授業で理解することの難しい児童を支援する。	〈満足度指標〉 個別のサポートによって意欲を持って学習した。	子どもの満足度の割合が A：90%以上 B：70%以上 C：50%以上 D：50%未満	授業中の個別のサポート等、児童の個別支援をしていただき、対象児童の学習意欲は向上した。	B	・スクールサポーターや学習支援員が入り、子どものニーズに合わせて対応していたので、成果が上がっている。	・少人数学習時の教材研究について、さらに吟味を重ねる。また、学び合いの成立するグループ分けについても更に考慮する。
③ 豊かな心の育成	〈良好な人間関係〉 様々な集団活動を通して良好な人間関係を保つ態度を養うとともに適切な行動様式を身に付けられるように指導する。	〈満足度指標〉 誰とでも仲良くしようとする意識を持つと共に、場に応じた行動ができる。	良好な人間関係づくり、場に応じた行動が A：できている B：だいたいできている C：できるよう努力した D：できない	児童のアンケート結果では94%の高い達成率だが、現状を見ると、まだまだ『思いやり』『我慢』が出来ない児童が少数見られる。	B	・今は人格の基礎を学ぶときであり、挨拶や生活のマナーを身に付けてほしい。	・道徳・学級活動を通して、児童の内面の、より深い成長を促進する。 ・人間関係の問題については、担任が早く察知して、児童・保護者と先生の連携を保つ。
	〈豊かな心を育む〉 朝読書、読み聞かせなど、学校生活の中で読書する機会を多く持つことで豊かな心の育成に取り組んでいる。	〈成果指標〉 読書について学年ごとの目標を定めそれが達成されている。	学年目標に達した割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	朝読書の定着。読み聞かせの活発化。お話ボケットの参加者増。図書館貸出本の内容の高度化など。学年目標達成児童90%	A	・学校で学ぶべきこと、家庭が責任を持って育てなければいけないことのみ分けが必要。	・各学年の読書活動目標の明確化を図る。 ・学級文庫の充実を図る。
	〈エコ活動〉 自然体験や環境教育などを通じて児童が自然や資源物を大事にする心を育てる。	〈満足度指標〉 節電節水などエコに対する意識の向上が見られ日常生活の中で行動に表れている。	省エネを意識した行動が A：いつもできている B：だいたいできている C：あまりできない D：できない	エコキャップの回収開始。落とし物の対応方法の変更。親子レクでの木場湯清掃。環境大賞受賞。エコ委員会の活動。	A	・木場湯の環境学習やペットボトルキャップの回収など、体験を通してエコに気付けさせてくれている。	・環境に配慮する回収運動、保護者と共に考える機会等を、目的を捉え増やしていく。
④ 健全な体の育成	〈健康教育〉 自分の生活習慣や体について関心を持ち、規則正しい生活を送ることができる。	〈満足度指標〉 ノーゲームデー等、自分の健康についての基本的な生活習慣が十分身につけている。	身につけている割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	児童の生活アンケート結果90%以上。ノーゲームデーを月一回から、毎週土曜日と変更して実施した。	A	・児童のアンケート結果は自身の健康管理・安全に十分気を付けていると言うことであったが、先生の声かけにより、変化が大きい。	・ノーゲームデーの取り組みは今後も積極的に働きかけたい。
	〈安全指導〉 事故やケガについての原因や問題点が整理分析され、適切な対応、予防がなされている。	〈満足度指標〉 共通理解のもと、児童への指導助言が適切にできた。	児童への指導助言が A：十分にできた B：だいたいできた C：あまりできなかった D：できなかった	中間アンケートよりも更に意識して指導を行い、怪我の件数が減少した。	A	・子どもは親の背中を見て育つと言うが最近の親の中には子どもを育ててくれない親がいる。学校の強い意識と家庭との連携が大切である。	・より一層、安全指導の徹底を図り、事故やケガの件数を減らす。と共に、周りからも声かけができるように指導・巡回を行う。
	〈家庭との連携〉 家庭との連携を密にし「早寝・早起き・朝ごはん運動」を広く呼びかける。	〈成果指標〉 早寝早起き朝ごはんの習慣が十分身につけている。	早寝早起き、朝ごはんの習慣が A：毎日身につけている B：週に5日以上身につけている C：週に4日以上身につけている D：週4日未満しか身につけていない	児童の生活アンケート結果による。	B	・家庭との連携は、学校からのお知らせ、呼びかけを続ける。PTAと協力して、いろいろな方面から保護者に働きかける。	・家庭との連携は、学校からのお知らせ、呼びかけを続ける。PTAと協力して、いろいろな方面から保護者に働きかける。
⑤ 家庭・地域との連携	〈特色ある教育活動〉 地域の先生を招きさまざまな活動を通じて地域の特色や伝統文化に触れる。	〈満足度指標〉 児童が興味関心意欲を持って活動に取り組み満足できる成果を表すことができた。	意欲を持って取り組みめたか A：十分でできた B：だいたいできた C：あまりできなかった D：できなかった	それぞれの学年が特色を生かし、地域の講師の援助を受けた取り組みを行っている。(米づくり・そば・大豆・おっしやべ等)	A	・保護者の参加人数は、行事によって違うが、できる限り参加を心がけている。	・PTA活動の参加率が上がるように、友友会活動の工夫をするともに、更に参加呼びかけも工夫する。
	〈PTA活動〉 役員会を中心にアイデアと工夫を出し合いながら全家庭・教職員と連携協力して活動に取り組む。	〈満足度指標〉 育友会3大行事(総会・家族ふれあい参観・親子奉仕作業)にたくさん保護者等の参加協力があつた。	参加者の割合が A：90%以上 B：70%以上 C：50%以上 D：49%未満	役員を中心に70%以上の保護者の参加・協力があるが、もっと工夫し、参加率を上げるようにした。	B	・クラブの先生や学習支援員、図書ボランティア等との連携が素晴らしい。	・地域の先生や保護者との連携は良好であり、これからは地域ぐるみ学校支援事業で培った「符津スタイル」を柱として一層の充実、強化、推進を図る。
	〈地域との連携〉 学校行事・学習活動支援・図書館ボランティア・防犯活動など1年を通じて地域と連携して行っている。	〈満足度指標〉 学校教育におけるさまざまな活動に、地域の人たちの特技や魅力ある能力等が学校との連携のもと活かされた。	地域の方との連携が A：十分にできた B：前年度より前進した C：前年並だった。 D：前年より後退した	図書ボランティアによる読み聞かせ、クラブ活動での地域の講師の援助、わがまち防犯隊による登下校指導、保護者による登校指導等しっかりしている。	A	・子どもたちは生涯学習的な体験ができて良い。	